





朝鮮ニ高等機密偵察ヲ置クノ意見

嗚呼朝鮮ノ事豈ニ言フニ堪ンヤ言フモノ既ニ之ヲ  
敵ヲテ測クモノ亦既ニ之ヲ倦ム況ヤ内治ノ被雜

此ノ如ク外交ノ盤錯此ノ如クナリ今日ニ於テ一部  
陳套ノ朝鮮問題ヲ提起スルハ恰モ逐流ニ掉セラ  
逆風ニ航スルノ嫌ナキニ非ンモ齟カ黙止スヘカテカ  
ルモノナリテ以テ敢テ意見ヲ左ニ開陳ス

抑々我國ノ朝鮮ト交渉スル往古一姑ク控キ近クハ  
端ヲ明治九年ニ發シ十五年ノ亂十七年ノ喪並ニ皆テ  
我ノ失敗ニ屬シ遂ニ廿七八年ノ役ニ於テ千古無前  
ノ國威ヲ奮揚シ朝鮮ノ事斯ニ始テ我カ掌中ニ  
歸シタリシニ未タ笑クナラスシテ更ニ廿八九年ノ

王宮事変ヲ生出し其結果ハ徒ニ淚父ヲシテ其利  
ヲ墜断セシメ二十年来ノ苦辛一朝皆テ水泡ニ帰シ  
朝鮮ノ大事殆ト去テ而シテ已ハ宣言ニ千古痛恨ノ  
極ナラスヤ是ニ於テハ所謂對韓策ハ一變シテ對露  
策トナリ人皆ナ朝鮮ヲ言フコトヲ厭フテ而シテ朝鮮  
ヲ測クコトヲ倦ム蓋シ朝鮮其物ノ價值ナキ割合ニ  
ハ兎角該外交ノ困難ナルヨリ人皆ナ厭倦ノ心ヲ生シ  
一意之ヲ厄介視シテ而シテ知ラズ識テス此問題ヲ疎  
外スルノ傾向アルニ至レリ

夫レ然リ朝鮮ハ實ニ我國ノ厄介物タルヲ論スル迄  
モナク實ニ東洋乃至世界ノ厄介物ニシテ既往二十  
年間當局ノ苦心ト國民ノ辛酸ト我國ノ力ヲ損耗セ

シモノ其レ果シテ幾何クソヤ然レ氏此ノ厄介物ノ為メニ  
我國ハ既ニ富強ノ實カヲ全世界ニ紹介セラレ東洋  
最盛ノ羊頭國ヲ出テ、一躍直ニ世界一等國ノ班列  
ニ加ハリ而シテ將來モ亦此ノ厄介物ノ為メニ到底世界  
ノ最強國ト一大衝突アルヲ免カレザルヘク而シテ  
該衝突コソハ實ニ我國興亡ノ分ケ目ニシテアハ苦ク  
ハ一躍更ニ世界ノ霸權ヲ掌握スヘキ一大企望ト一大  
機會トヲ有スルモノニ非スヤ左レハ此ノ厄介物ハ真  
成厄介物ニアラスシテ其實ハ我國即チ東洋ノ運命  
ヲ定ムル天王山タリ決勝点タリ豈ニ我カ無上ノ  
要害トシテ深ク之ヲ重要視セザルヘケンヤ然  
ルヲ我國人ノ識見尚ホ未タ此ニ及ラス之ヲ利用スル

所以ヲ講セスレテ却テ之ヲ厄ナク視スルモノ世間溜々  
皆是ナリ勝テテ浩歎スヘケンヤ

熟ク我國カ朝鮮ト交渉以來ノ功課成績ヲ考査ス  
ルニ曰ク彼レノ獨立ヲ扶植スルナリ曰ク彼レノ開國ヲ  
勸誘スルナリ曰ク彼レノ文化ヲ啓蒙スルナリ其他  
開港ニ交通ニ其偉功偉勳固ヨリ以テ我ノ天職ヲ  
全フスルニ足ルモノ多ク之アリト虽モ而カモ比較的  
ニ成功ヨリモ寧ロ失敗ノ聲多キハ何ツヤ是レ其ノ  
責任固ヨリ當局ノ失政ニ帰セオレシ得ナルモ國民  
タルモノ亦タ未ダ全ク該責任ノ分擔ヲ免ルヘカラス  
何トナレバ既往二十年間ニ於ケル日本ノ朝鮮ニ對スル  
外交政策ハ朝鮮共ニ實ニ單調ノ方針ヲ取り来リ

テ而シテ曾テ已レノ幼稚タルヲ自覺セオリケレハ  
ナリ何ツ以テ之ヲ謂フ曰ク朝鮮人ノ性質タル他ノ  
幼稚ナル割合ニハ頗ル陰險狡猾ノ手段ニ富メルニ  
拘ラス我國人ハ之ニ對スルニ兎角表面ノ運動ヲ  
以テレテ而シテ裏面ノ運動ヲ以テセス故ヲ以テ  
政事ニ商業ニ動スレハ輒々彼レノ瞞着スル所ト  
ナリ或ハ他ノ阻碍スル所トナリ其結果ハ到底失  
敗ニ歸スルモノ往々皆テ然ラサルハナシ平日且ツ  
然リ況ヤ一旦交渉ノ時ニ際シ處ニ其圓滿ヲ保タ  
ント欲ス得ヘケンヤ既ニ幼稚ナル朝鮮ニ對シテ尚ホ  
然リ況ヤ老獪ナル他國ニ對スルヲヤ蓋シ十九世紀ノ  
外交政策ハ否ナ昨今以後ノ對韓政策ハ此ノ如キ

單調ナル方針ヲ以テ勝ヲ制スルヲ恐クハ到底其望ニ  
難キヲ信スルナリ  
試ニ二十七八年<sup>庚申</sup>我カ朝鮮外交上ニ就テ之ヲ論セシニ  
廿七八年<sup>庚申</sup>文ハ我ノ朝鮮ニ於ケル空前絶後ノ權力  
膨脹時代ニシテ其名ハ獨立ヲ扶植スト曰フト且モ  
其空ハ廢立點陟生殺與奪ノ權皆ナ我カ掌中ニ  
在リテ朝鮮ノ君臣上下唯命之聽ノ現勢ナリシ此  
時ニ當リテ設令シ王妃ヲ廢シ實業(採礦、開墾、鐵道  
等)ヲ發ケ國家百年ノ基礎ヲ建設シタラシニ兩國  
ノ關係永ク平和密着ヲ保テテ而シテ渠シ老獯モ復タ  
奈何トモスル能ハカリシナラシニ惜カナ當時當局ノ  
意見此ニ出テス寧ロ反對ノ方向ニ趨リ乃チ王妃ヲ

制セス實業ヲ興サス徒ニ徳法徳文ヲ弄シテ以テ根  
本的改革ヲ施行セント企テタリキ當時當局ハ勿  
論國民一般モ以謂ラク今ヤ我國全勝ノ餘威ヲ以テ  
之ニ臨ム假令從來及覆ノ朝鮮モ復タ背反ノ虞ナカ  
ルヘシ夫ノ王妃跋扈ノ若クハ彼々豈ヤニ介スルニ足  
ラサルナリト何ヲ圖ラン此ノ措大ナル經營ト淺サ薄ナル  
意思トハ老獯ナル他人ノ嗤フ所トナリ遂ニ其ノ相  
場中ニ陷テ而シテ自カテ之ヲ覺ラサリシトハ蓋シ  
王妃ノ跋扈ハ十月事変ヲ激成シ十月事変ハ乃チ廿  
九年ノ二月事変ヲ激成シ轉輾輪環復讎ヨリ皮讎ヲ  
生シ遂ニ今日仇讎ヲ以テ朝鮮ニ呼ビ獨リ老獯ナ  
ル漢父ヲ利セシムルニ至リシモノ是レ固<sup>ヨリ</sup>當局ノ失政

ニ屬スルヤ論ヲ俟タカレモ抑又國民タルモノ朝鮮ヲ  
視ルノ冷淡ニシテ能ク事相ノ源委結果ヲ究ムル  
ノ鑑識ナク徒ニ當局ニ放任シテ而シテ已レ自身  
モ亦甚タ幼稚ナルヲ自覺セリリシ譏責ナキヲ  
得ンヤ是レ余カ朝鮮問題ノ今日陳腐厭倦ナルニ  
拘ツラス敢テ黙止スル能クサレ所以ナリ蓋シ禍ノ起ル  
起ルノ日ニ起ルニ非スシテ其ノ自來スル所アリ陰雨纏  
綿ノ計豈ニ我カ刺下ノ朝鮮ニ對スル外交ニ急務ニ非  
ストセンヤ

尚ホ進ニテ近今我國ノ朝鮮外交ニ於ケル方略ヲ  
觀ルニ一面ニ於テハ專ラ國王ノ感情ヲ融和セシ  
ムルニ務メ又一面ニ於テハ各國人ノ歡心ヲ得テ成ル  
ヘク我ノ味方ヲ作り之ト同時ニ我ノ勢力ヲ維持スル  
為メニハ務メテ居留人民ノ利益ヲ保護シ其結果ハ  
乃チ國王ノ還宮トナリ水浦鎮南ノ開港トナリ選擇  
ヲ免シ渡航條例ヲ廢スル等其ノ平和ヲ保持シ利益  
ヲ増進スルノ点ニ於テ着々歩ヲ進ムルノ實ニ快口乱  
麻ヲ斫ルノ概アリテ復タ遺憾ナキカ如シ蓋シ今日  
對韓ノ方針ハ務メテ平和ヲ保持シ利益ヲ増進ス  
ルノ外復タ他ニ長策ナカレヘキナリ然ラハ則チ對韓  
ノ方略現今ノ施措ニ一任シテ可ナラレカ曰ク否ナ決シ  
テ現今ノ施措ニ満足スヘカラガレモノアリ請フ試ニ  
之ヲ論セン

由來朝鮮ノ國習表裏陰險及反覆常ナリ施政ノ

方針朝政を善改して恰も走馬燈ノ如ク而して大小官員ノ任命ヨリ乃至國家大小ノ社計毎ニ宮中ニ成りテ而して宮中ヨリ漏レ驍幸朋黨宮闈ヲ以テ一ニ政權争奪ノ府トナシ賄賂苞苴ハ言フモ更ナリ排擠援引誦詐貪婪凡ソ人間背徳没理ノ事至ラカレ所ナク行ヒカレ所ナシ是レ所謂朝鮮宮中政事ノ常套ニシテ而して今ニ於テ尤モ甚シトナス且ツ宮中政事彼舊ノ結果トシテ客年以來存リニ渙塩其他各種ノ雜稅ヲ復活シテ之ヲ宮内部ノ管轄ニ移シ近今ニ至リテハ更ニ礦務ヲ擧テ又其ノ所管ニ屬セシメリ則チ朝鮮ノ宮中ハ早ニ政權争奪ノ府タルノミナラス又實ニ利源經營ノ地タルヲ知レハレ左レ朝鮮ニ於ケル外交ハ

朝鮮ニ於ケル經營ハ表面上國際的ニ執行スルト同時ニ一方ニハ裏面ヨリ社交的文際トシテ宮中ニ連絡シ之レヲ機密ヲ探リ之レカ策應ヲ施スニ非レハ到底機放圓滿ノ動作ヲナス能ハカレハ宮中ノ理ノ觀易キモノニ非スヤ唯タ露人ウエーバー夫妻能ク以テ宮中政事ノ情實ヲ穿テ却テ其弊ニ乘シテ巧ニ之ヲ利用シ操縱抑揚頗ル其妙ヲ得十年ノ久シキ曾テ宮中ノ連絡ヲ絶タス故ヲ以テ客年二月事變ノ如キ嚴重ナル宿衛(趙義淵等兵ヲ督シテ現ニ關内ニ在リ)關ノ内外ヲ擁護スルニ拘ソラス大膽ナル詭計(國王女装シテ露館ニ潜幸ス)輒ク行ハルヲ得テ而して我國建設ノ金氏政府ヲ根底ヨリ顛覆スルヲ實ニ反掌ノ間ナリレ吁嗟宮中連絡ノ

効力モ此ニ至テ亦タ大ナラスヤ然ルヲ我國先進ヲ以テ  
朝鮮ニ臨ミ既往二十年ノ久コキ未タ嘗テ宮中連絡ノ  
方ヲ講セス(蓋シ嘗テ之ヲ試ミシモノアラシキ而タモ設備ノ姑息ナ  
ル固ヨリ以テ其効ヲ見ルニ足ラサリシ)律義ニ單純ニ唯タ表面  
ノ運動ニ一任シテ而シテ裏面ノ運動ニ注意セス其ノ  
結果ハ客年二月事變ニ至リテ千古遺憾ノ不覺ヲ取  
リ而シテ今ニ返リ尚ホ此ノ宮中偵察ノ必要喫緊タル  
コトヲ自覺セス是レ豈ニ今日ノ一大缺點ニ非スヤ  
夫レ露國カ人國ヲ略セント欲スルヤ先ツ其國ノ驕幸ヲ  
誘ヒ又其國ノ宗族皇臣ヲ離間シ其神任既ニ麻痺シ  
其肢體既ニ不随ナルヲ待テ一舉之ヲ殲ス<sub>ト</sub>朽ヲ拉ク  
カ如キハ彼レカ得手ノ慣用手段ニシテ彼レノ朝鮮ニ

於ケルモ亦從來諷筆法ヲ使用シツマアルノミナラス  
今ヤ彼レ現ニ其項ヲ扼シテ而シテ其死命ヲ制ス  
則テ朝鮮ノ事欲シテ成ラサルコトナク求メテ得サ  
ルコトナカルヘシ尚ホ何ソ區々傭兵ノ脅迫借地ノ  
強請ニ怪マンヤ此時ニ當リテ之レカ防備ヲナサ  
ント欲セハ直シク一面ニ各國人ヲ連結スルト同時ニ  
大ニ米國派ヲ煽揚シテ以テ彼レノ跋扈ヲ制セシメ  
又一面ニ宮中連絡ノ道ヲ通シテ彼レノ秘計ヲ先  
覺シ以テ臨機ノ策應ヲナカハルヘカラス果レテ  
一タニ宮中連絡ノ道ヲ通スル曉ニハ地歩ノ進ム  
所早ニ機密偵察ニ止マラス<sub>ニ</sub>テ或ハ政權ニ窺  
ヲ試ムヘク或ハ實業ノ助言ヲ與フヘク遂ニ<sub>進</sub>鐵道



ノ布設乃至訓練兵式ノ上ニマテ立入り随テ笑ハ口國王  
ノ意思ヲ翻ヘカシムルニ至ルモ亦未<sup>絶</sup>對的絶望ニ帰ス  
ヘカラス假令然ルコト得カントスルモ少クトモ宮中  
ノ機密ヲ偵知シテ策應ノ材料ニ供スルニ於テハ  
蓋シ餘リアルニ足ルヲ証センノミ  
論者或ハ謂フ宮中連絡ノ策可ハ則チ可ナリト雖モ  
既往順境ノ時ニ於テ尚且ツ其志ヲ得ナリシニ況ヤ今  
日及ヒ將來ノ逆境ニ於テ如何ソハ策ヲ履行シテ其  
目的ヲ達スルヲ得ント曰ク否ナ是レ彼ノ事情ニ迫セ  
サル所謂机上ノ想像論ノミ夫レ既往順境ノ時ニ在  
リテハ未タ甚タ其必要ヲ感セザリシヲ以テ又随テ  
之レカ設計ヲ為カ、リシナリ敢テ其志ヲ得ナリシニ

ハ非ナリ抑々此策ヲ履行セルトスルニハ所謂社交  
的交際トシテ應分ノ交際費ヲ投シ或ハ賄賂ヲモ行  
使スヘク或ハ買収ヲモ施スヘク務メテ利益ヲ以テ  
彼レノ歡心ヲ買ハサシヘカラス苟クモ利益ヲ以テ之  
ヲ誘フ則チ彼等ノ眼中復タ國家ナク内外ナシ尚ホ  
何ヲ吹逆ノ差カ之アラシ其ノ之アハモノ特リ朝鮮王  
室ト日本公使館トノ表面ノミ故ニ曰ク表面上國際  
的ニ履行スルト共ニ又裏面ヨリ社交的ニ運動セカシ  
ヘカラスト  
然ラハ則チ之ヲ施スノ方法果シテ如何曰ク朝鮮事  
情ニ精通シテ思慮精密ナル者ヲ擇ヒ特ニ公使  
館以外ニ獨立シテ專ラ社交的交際即チ宮中連絡

ノ任ニ當ラシメ以テ公使ノ監督ニ附スルノモ若シ夫レ  
經費ハ年々四五千圓ツ、ヲ割給スルナリ又一時ニ  
一二萬圓ヲ下附シテ固定持續ノ方法ヲ立テシムル  
ナリ要ハ之ラシテ充分文際運動ノ圓滑機敏ヲ得  
セシムルニ在ルノモ余ヤ菲々淺學固ヨリ以テ樞機ヲ  
論シ時勢ヲ謀スルノ機能ナシト雖モ廿七八年以來現  
ニ朝鮮舞臺ニ在リテ躬カラ其ノ活劇ヲ実践日撃  
シ憤慨自カラ禁スル能ハス乃チ拙陋ヲ忘レテ敢テ此  
策ヲ獻スル所以ナリ終ニ臨ニ更ニ一言ヲ要スルモノ  
他ナシ抑々我國民ノ性質タル躁急輕銳ニシテ所謂  
深謀遠慮ニ乏シク故ヲ以テ外交政策ノ如キモ平日  
之ヲ講究準備スル所以ヲ知ラズシテ其ノ一朝問題

ノ起ルニ及ビ則チ遽ニ躍起狂奔スルノ恠モ狂瀾怒濤  
ノ如ク而シテ其結果ハ業ニ既ニ機宜ニ後レテ空シク徒  
勞ニ帰スルモノ蓋シ屢々従来ノ經驗ニ徴スル所ニシ  
テ今此ノ朝鮮宮中偵察ノ一手段ニ於ケンモ早ク之  
カ所ヲ為カシハ後ヲ恐クハ他日更ニ噬臍ノ悔アラセ  
トシ語ニ曰ク千夫ノ堤防モ蟻穴ヨリ壞ルト又曰ク一日  
ノ邊境ハ百千萬年ノ患ナリト聖人葛亮ヲ以テ  
其言ヲ棄ラズ伏シテ冀クハ速ニ之ヲ採擇セラシメ  
トシ

明治三十年十月

Handwritten text in a vertical column within a blue-lined border, likely a transcription of a historical document. The text is written in a cursive style and includes several lines of characters, some of which are partially obscured or faded. The text appears to be a list or a series of entries, possibly related to a historical event or a collection of items. The characters are densely packed and difficult to read precisely due to the cursive style and some fading.